

(法第 28 条第 1 項関係)

## 平成 28 年度事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 i さいと

### 1、事業の成果

平成 28 年度は 4 月に発生した熊本地震の影響から始まった 1 年だった。事業的には、i さいとの中核事業である西都原考古博物館受託及び関係事業とまちづくり事業の 2 本立ての事業であったが、地震の影響で博物館への団体旅行の中止（九州へのと言い換えてもよいが）から幕を開けたため、入館者数の減少など先の見えない中での船出に近いものがあった。

28 年度の西都原考古博物館は震災の影響で来館者も伸び悩みから始まったが、震災支援の特割切符や、熊本・大分への旅行予定者が急きょ宮崎に行き先を変更するなどが起こり、順調な来客数に推移した。当法人は博物館の運営支援事務局としてボランティアの支援や団体予約の受け付けなどの従来事業の他に、ミュージアムショップ（MS）での様々なワークショップの開催や季節ごとに MS のディスプレイを変えるなど積極的な活動を行った 1 年であった。残念ながら MS の売り上げには直接的には影響しなかったが、従来考古博物館に無縁だった人たちに広く周知し来館を促す試みとして大きな成果を上げることが出来、今後の考古博物館を拠点にした活動を推進する上で貴重な足がかりとなった。

また、体験館に隣接する古代復元住居の茅葺き屋根の葺き替え事業は昨年度に引き続きコーディネートとして参画した。今年度はしろみ匠の会と協力し、葺き替え作業を行った。無事落成し、落成披露等も行い、考古博物館の運営に関して i さいとの協力が不可欠であることを強く印象付けることが出来た。

また、26 年度から準備を進めていた銀鏡地域の活性化を観光事業とリンクさせる試みが「銀鏡修驗文化復活プロジェクト」は、地域住民を巻き込んだ「滝行」の復活として定着することができた。

2 年間途絶えていたレーダー探査事業も復活した。2014 年に当法人が行ったチジワミゲルの墓と推定される墳墓のレーダー探査事業を契機に長崎県で発掘作業が開始されるなど、当法人の活動が全国的に評価された。

## 2、事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ① 市民活動の推進に関する調査・研究・コーディネート事業

ア) 須木地域づくりビジョン策定業務委託事業

#### ② 市民活動の推進に関する広報・啓発事業

ア) ホームページ・SNSを活用した情報発信事業

#### ③ 公共施設の等の管理・運営に関する協力・委託事業

ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

イ) 甦れ！古代ロマン復元住居再生事業に伴う茅葺き屋根改修作業委託事業

#### ④ その他目的を達成するために必要な事業

ア) 西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

ウ) 地中探査事業

## ① 市民活動の推進に関する調査・研究・コーディネート事業

ア) 須木地域づくりビジョン策定業務委託事業

### ◆事業期間

期間：平成 28 年 4 月～28 年 6 月

### ◆事業概要

「須木地域づくりビジョン策定業務」として、須木地域の人口動向分析や将来人口の推計と分析、地域各種団体の意見収集等を通して、30 年後も持続可能な地域づくりの基本方針や総合的・計画的な事業計画の策定を行った。

業務の内容として下記の 1) 2) をふまえ、地域の課題を把握・分析し、地域が活力を保ちながら、住民がいきいきと生活できる須木地域の目標、基本方針及び施策などを示した。

#### 1) 人口の現状分析・将来推計

ア 人口分析

イ 将来人口の推計と分析

ウ 人口の変化が地域の将来にあたえる影響の分析・考察

#### 2) 地域づくりの将来展望

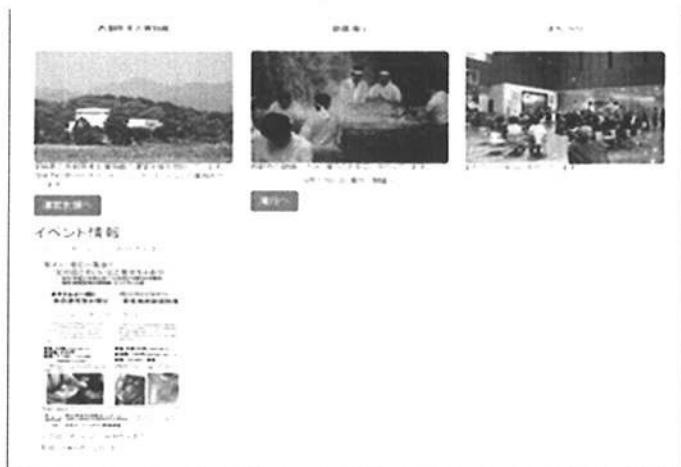
ア 現状把握と将来展望に必要な調査・分析

成果品：須木地域づくりビジョン 50 部 ダイジェスト版 各 100 部

## ア) 広報事業

### 1、ホームページリニューアル <http://www.isaito.net/>

i さいとのホームページをリニューアルした。博物館運営支援事業全般はもちろん、ミュージアムショップの情報や西都市銀鏡での「滝行プロジェクト」を含めた内容など充実を図る。今年度よりホームページから講演会や滝行の受付など24時間情報を発信受信可能となったことは大きい。今後は毎日スタッフが更新している博物館事務局facebookページともリンクさせ、ライブ感のある魅力的な情報を発信できるよう更なる充実を図っていきたいと考えている。



### 2、SNS (facebook) を活用した案内・告知

SNS（事務局facebookページ）を積極的に活用。今年度は館職員やガイドボランティアとの友達申請を行い、多くの方とつなげる作業をスタッフ全員で取り組んだ。SNSの記事に「いいね！」の数を増やし当法人が行う各種イベントや博物館で開かれる展示会や講座や講演会の案内告知を幅広く行えた。またSNSでつながることで当法人のサポーターを増やすことを目的にコメントをくださった方には素早く返信。読んでくださる方へ心に届く丁寧な情報発信を心がけた。



### ③ 公共施設の等の管理・運営に関する協力・委託事業

#### ア) 宮崎県立西都原考古博物館運営支援業務委託事業

##### ◆事業期間

期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

##### ◆事業概要

受託 8 年目の今年度。新たなスタッフも増えて、総員 8 名の体制で事業に取り組んできた。

通常の支援業務としては、団体予約、ボランティアガイドのコーディネート、そのボランティアに対する各種研修・講座の企画と運営。また体験館においては、体験講座で使用する材料調達など、来館者の満足度向上およびそれぞれの目的とレベルアップを念頭に置きながら実施してきた。ボランティア研修においては、通常の解説研修をはじめとした座学での研修はもとより、館外における実際に遺跡や古墳等の見学を体験する研修も実施した。例年は日帰りと宿泊の 2 回であるが、本年度は年度初頭に発生した「熊本地震」の影響もあり、福岡・宗像方面への宿泊研修の 1 回の実施となった。

昨年度から実施した「ボランティアの交流会」も引き続き 2 回行い、それぞれテーマを決めて、ボランティア自身が調べた資料を基にお互いに意見交換を行う形で、とても好評であった。次年度も引き続き実施する予定である。

3 月 11 日には、当法人が東日本大震災発生の翌年から継続して行ってきている「震災を忘れない」6 回目を実施した。今回は、博物館の中庭を利用して、他の 6 団体の協力のもとで、「災害時炊き出しワークショップ」、「太陽光クリッキング」、「スマスマから歴史を見つけよう」、「東北・熊本へ届け！メッセージ帆作り」、「ブルーシートでテント作り」、「5 連発ゴム鉄砲作り」、そして「ミニ演奏会」といった多彩なイベントを行う。これらを通して参加者の皆さんにせめてこの日だけでも被災地に想いを馳せ、万が一自分たちの地域に災害が発生した時にどうするのか？考えていただくきっかけになればと考えている。これは、震災発生直後から東北での支援に関わってきた当法人の重要なミッションと考えており、来年度以降も引き続き実施していく。（この模様は、宮日新聞や宮崎ケーブルテレビでも取り上げていただいた）

当法人の活動目的の一つに芸術・文化等の振興を図る。というのである。それを具現化する一つが、県立西都原考古博物館エントランスホールにおける「ミュージアムコンサート」である。今年度も 7 月の「ひまわりコンサート」、11 月の「コスモスコンサート」の 2 回を実施した。県内を中心に活動されているフルート奏者である外山友紀子氏とそのお仲間や生徒さんたちの演奏をしていただいた。恒例化しつつありこの演奏会を楽しみにされ地域の小さなお子様連れのママや、観光タクシーの方が時間にあわせてお客様をおつれしたり会を追うごとに増えており、毎回 100 名以上のお客様に聞いていただいているイベン

トとなっている。同時に、開始前には当博物館の学芸の方に展示会の紹介コーナーも設けコンサート後にお客様を展示室への誘導も併せて行った。今後もぜひ継続して実施していきたい。

新たな取組として、「お茶会」を行った。以前、ボランティアの協力で小規模なものを実施したことはあったが、今年度は他団体の協力をいただいて本格的なお茶会を 2 回実施した。4月には一般社団法人みやざき公園協会、宮崎第一高等学校のご協力のもと、博物館正面玄関前にて茶道部の生徒さんによるお点前と、一般社団法人みやざき公園協会さんによる花の苗無料配布と寄せ植え教室を行った。熊本地震発生直後にもかかわらず多くの方にご参加いただきにぎわった。10月には国際交流展の開催に合わせて表千家流茶道宮崎県同友会の方々によるお茶会を開催。今回はエントランスホールに茶室を作りお点前を行った。関係者の方がみなさん着物で来館されて、いつもとは違う雰囲気の博物館となった。この模様は宮日新聞でも紹介された。

他に行った企画として、6月に「育メン・育G・集合！父の日こそいいとこ見せちゃおう！」を開催。親子で木のおもちゃ作り、そして災害時に役立つ非常用炊飯袋を使った調理体験を行った。10月には「秋の西都原を楽しもう！ 秋の植物観察と味覚」と題して、一般社団法人みやざき公園協会さんの協力で宮崎県環境保全アドバイザーの金丸文昭氏を講師にむかえて野草の観察を行った。終了後には、体験館で土器を使った試食会と非常時炊飯袋を使った調理方法も紹介し、災害時の備えについて考える機会とした。1月には、一般社団法人みやざき公園協会と日本ボーイスカウト宮崎連盟、(NPO) ひむかおひさまネットワークの協力をいただき「子どもと一緒に巣箱を作って西都原をもっともっと楽しもう！」を開催。巣箱作りや太陽光をつかったおもちゃや調理体験。ブルーシートを使ったテント作り、非常用炊飯袋を使った調理などを参加者が楽しんだ。

最後に、昨年度から行ってきた「甦れ！古代ロマン 復元住居再生事業」。昨年度は準備作業を行ってきたが、いよいよ屋根のふき替え作業を開始した。7月から作業を開始し、解体作業から茅の運搬、ふき替え作業を一部はボランティアも交えて進めてきた。途中茅が不足するという事態になり、追加で茅の刈り取りを行い、3月に完成した。「震災を忘れない！」に合わせて3月 11 日に落成式を執り行った。この日は、銀鏡神社神主による神事の後、せんぐまきやぜんざいのふるまい、そしてみやざき犬のダンスショーもあって、多くの方に参加していただいた。この事業では「しろみ匠の会」や県民ボランティアのみなさんの協力をいただいて無事に完成することができた。これも当法人がこれまで培ってきたネットワークがあつてのことだと自負している。

今後も当法人の強みを活かしつつ、運営支援に携わっていきたいと考えている。

#### イ) 甦れ！古代ロマン復元住居再生事業に伴う茅葺き屋根改修作業委託事業

西都市東米良地区住民でもあり匠の会の方々の協力を得て、西都原考古博物館内にある古代住居の茅葺き屋根改修作業を実施する際のコーディネイトを行った。

今年度はおもに茅葺き屋根の修復作業として西都原考古博物館古代住居での作業。

平成28年 5月31日 ①完成までの打合せ

7月17日 ②竹の伐採、枝打ち作業・博物館搬入

8月21日 ③神事 古茅外し 解体作業

8月26日～ ④木の選別 垂木、えつり 梁、桁取り作業

9月 9日～ ⑤支え木のきつけ（梁結び・帆桁結び）

9月10日～ ⑥一部茅葺き 材料不足と台風の為中断

平成29年 1月14日～ ⑦茅の運び込み

2月 2日～ ⑧茅葺き・おさえぶち

2月14日～ ⑨足場の取り付け 茅葺き作業 茅の固定 繩取り

2月28日～ ⑩棟つくり

3月 1日 ⑪さし止め 茅の刈込 整え

3月11日 ⑫神事 完成披露

作業日数29日 銀鏡たくみの会述べ107名 ボランティアの参加で改修、葺き替え実施した。

#### ④その他の目的を達成するために必要な事業

##### ア) 宮崎県立西都原考古博物館ミュージアムショップ運営事業

ミュージアムショップの運営については、従来から行っているSNS(Facebook)を使った情報発信は継続して実施した。新商品や人気商品の紹介や展示会に関連した書籍等の紹介を行って好評をいただいている。今年度はそれに加えてオリジナル商品の開発や関連商品の充実に力を入れてきた。「夢の塩」の販売や、キー ホルダー やタオルの販売など作家さんの協力をいただいて実施した。中でも特別展に合わせて制作した「隼人の楯タオル」は人気商品となっており、いまだに売れ行きは好調に推移している。

今後も積極的にこうしたオリジナル商品の企画販売をすすめていきたい。

同時に、来館されたお客様に喜んで頂けるよう季節感のある陳列や企画をおこなつた。七夕の時期にはショップ前に笹とオリジナル短冊を準備して、お客様に願い事を記入して下げていただくという企画も実施した。

ショップの壁面やシャッター面を利用して、各種作品の展示も行った。ボランティアの趣味の作品や古墳写真家による写真展など作家さんの発表場所としても活用していただいた。西都原考古博物館をもっと身近に感じていただけるよう、引き続きこうした企画に取り組んでいきたい。

##### イ) 銀鏡 滝行プロジェクト

昨年度から定例で行っている西都市銀鏡地区の活性化を目的とした「銀鏡 滝行プロジェクト」を今年も実施した。

2月の滝開きを皮切りに、偶数月に実施の予定であったが、天候不良の影響等で2月・8月・12月の計三回実施した。天候不良や地域の協力体制（本業が忙しい時期に実施は難しい）などの課題が浮き彫りになった1年であった。

## ウ) 地中探査事業

今年度、大分県豊後大野市の依頼による地中レーダー探査を1月28・29日の両日に行った。

28日は、大分県豊後大野市の秋葉鬼塚古墳と重政古墳の地中レーダー探査を実施した。

秋葉鬼塚古墳は、大分県豊後大野市三重町内田秋葉字鬼束に所在する全長約45mの前方後円墳である。

重政古墳は、豊後大野市三重町内田字重政に所在する全長約52mの前方後円墳である。

両古墳は、古墳時代前期から中期にかけて築造されたと考えられているが、これまでに埋葬主体に関する情報はない。

今回の地中レーダー探査は、両古墳の主体部に関する情報を得ることを目的として実施した。

29日には、同市の漆生（うるしお）古墳群・大久保1号墳の地中レーダー探査を実施した。大久保1号墳は、豊後大野市緒方町越生字大久保に所在する全長約36mの前方後円墳である。

当古墳は、古墳時代前期の築造と考えられているが、これまでに主体部や出土遺物に関する情報はない。

今回の地中レーダー探査は、両古墳の主体部に関する情報を得ることを目的として実施した。

